

# 様式工47 再生資源利用促進計画書(実施書) ー建設副産物搬出工事用ー

建築工事において、解体と新築工事を一体的に施工する場合は、解体分と新築分の数量を区分し、それぞれ「様式8」を作成して下さい。

## 1. 工事概要

発注機関名	発注機関コード*1	発注担当者チェック欄	請負会社名	請負者コード*2	記入年月日
		担当者	会社所在地	TEL FAX	工事責任者
		TEL ( )		( )	調査票記入者
工事名	工事種別コード*3	最終工事	100万円未満四捨五入 単位:千円まで	請負金額	0,000,000 円 (税込み)
工事施工場所	〇都〇道 〇府〇県	〇市〇区 〇町〇村	住所コード*4	工期	自 至
工事概要等	施工条件の内容		建築・解体工事のみ 右欄に記入して下さい		

建築面積	延床面積	階数	地上階	地下階
構造	用途	尚、解体工事については、建築面積は御記入いただくなくても結構です。		
<input type="checkbox"/> 鉄骨鉄筋コンクリート造 <input type="checkbox"/> コンクリートブロック造 <input type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 居住専用 <input type="checkbox"/> 店舗 <input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 鉄筋コンクリート造 <input type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 事務所 <input type="checkbox"/> 倉庫 <input type="checkbox"/> その他	

## 2. 建設副産物搬出実績

現場内利用の欄には、発生量(掘削等)のうち、現場内で利用したものについて御記入ください。

注) 再資源化施設、最終処分場は、指定副産物の種類ごとに3ヶ所まで記入できます。4ヶ所以上にわたる場合は、用紙を換えて記入してください。

コード\*14(コード\*13で「7.内陸処分場」を選択した場合のみ記入)

1.山砂利等採取跡地 2.処分場の覆土 3.池沼等の水面埋立 4.谷地埋立 5.農地受入 6.その他

指定副産物の種類	(1)発生量 (掘削等) =(2)+(3)+(4)	現場内利用・減量		現場外搬出について										再生資源利用 促進率 (2)+(5) (1) × 100				
		用途 コード*10	(2)利用量 うち現場内 改良分	減量法 コード*11	減量化	搬出先名称	区分	施工条件の 内容 コード*12	搬出先場所	住所コード *4	運搬距離 単位:千まで	搬出先の 種類 コード*13	受入地の 用途 コード*14		(4)現場外搬出量 単位:百万まで	うち現場内 改良分	(5)再生資源 利用促進量 (注2)	
建設発生土	第一種建設発生土	0				1ヶ所目	〇公共 〇民間				km				地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%
	第二種建設発生土	0				2ヶ所目	〇公共 〇民間				km				地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%
	第三種建設発生土	0				3ヶ所目	〇公共 〇民間				km				地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%
	第四種建設発生土	0				1ヶ所目	〇公共 〇民間				km				地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%
	泥土 (河川、湖沼 等の浚渫土)	0				2ヶ所目	〇公共 〇民間				km				地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%
	合計	0	0	0	0	3ヶ所目	〇公共 〇民間				km				地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	%
コンクリート塊	0				1ヶ所目	〇公共 〇民間				km				トン	トン	トン	%	
アスファルト・ コンクリート塊	0				2ヶ所目	〇公共 〇民間				km				トン	トン	トン	%	
建設発生木材	0				3ヶ所目	〇公共 〇民間				km				トン	トン	トン	%	
建設汚泥	0				1ヶ所目	〇公共 〇民間				km				トン	トン	トン	%	
建設混合廃棄物	0				2ヶ所目	〇公共 〇民間				km				トン	トン	トン	%	
	0				3ヶ所目	〇公共 〇民間				km				トン	トン	トン	%	

コード\*10  
1.路盤材 2.裏込材  
3.埋戻し材  
4.その他(具体的に記入)

コード\*11  
1.焼却 2.脱水  
3.天日乾燥  
4.その他(具体的に記入)

コード\*12  
施工条件について  
1.A指定処分  
(発注時に指定されたもの)  
2.B指定処分(もしくは準指定処分)  
(発注時には指定されていないが、  
発注後に設計変更指定処分とされたもの)  
3.自由処分

コード\*13(詳細は「表-4」参照のこと)  
再生資源利用促進  
1.他の工事現場(内陸:公共、民間を含む)  
2.再資源化施設(土質改良プラントを含む)  
3.有償売却(工事請負会社が建設副産物を売却し、  
代金を得た場合)  
4.建設発生土ストックヤード(他工事で再利用される場合)  
5.海面埋立事業(海岸、海浜事業含む)

最終処分場・その他  
6.海面処分場  
7.内陸処分場(建設発生土受入地を含む)  
8.建設発生土ストックヤード(再利用されない場合)  
9.中間処理施設(焼却施設、処分のための中間  
処理施設に限る)  
10.その他(具体的に記入)

注2.再生資源利用促進量について  
現場外搬出量(4)のうち、搬出先の種類  
(コード\*13)が1~5の合計